

三重県のNPOを応援する情報誌 リーダー

READER

2015

8

2015年7月25日発行
通巻200号

災いに備える





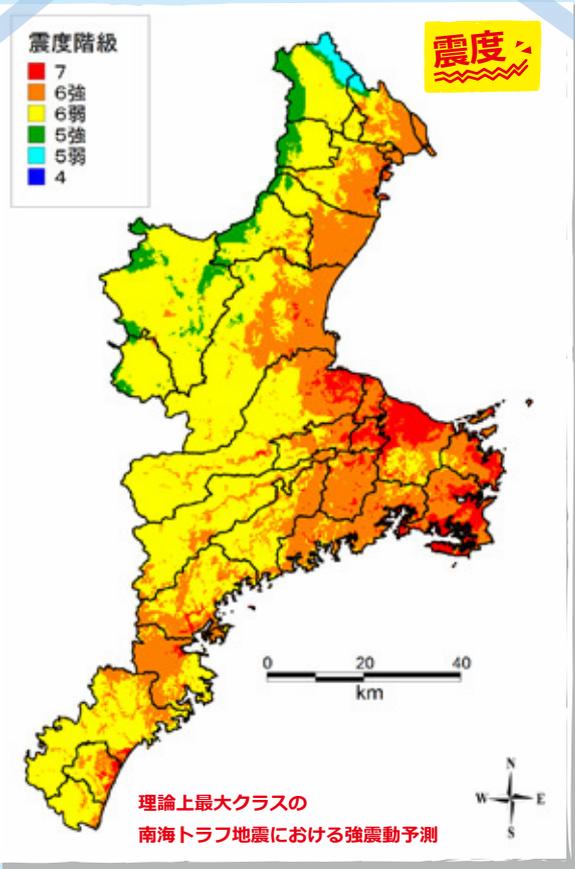
大地震が来る前に

南海トラフ地震が来る前に、いま知っておくこと、いまできること

数十年先かもしれないし、もしかしたら明日起こるかもしれない大地震。特に近畿地方を襲う「南海トラフ地震」について政府は、推測される最大規模の地震が起こった時の死者数を33万人と発表しています。これは東日本大震災の20倍近い数字になり、スマトラ沖地震の死者・行方不明者数28万人を超える、史上最大の事態になると言われています。そこで、いつ来るかわからない大地震に備え、多忙な毎日の中で、少なくとも、いま何を知っておき、何ができるのかを考えました。

🗨️ 今だからこそ確認しておきたい！「南海トラフ地震」被害想定 ～震度、津波はどれくらいくる!?～

近畿地方ではなく、南海トラフによる三重県の被害はどのように想定されているのでしょうか。そこで、三重県防災対策部にお話を聞きにいき、データを頂戴しました。その中から、震度、津波、建物被害、死傷者の項目をピックアップしています。



津波 3分で津波がくる!?

志摩半島や一部の東紀州地域では観測予測が10m近くに達し、志摩市志摩町越賀ではなんと！11.7mもの津波がくる可能性があるといえます。

津波の高さはもちろんのこと、さらに驚きなのは、その津波の到達時刻。志摩市の一部地域では、地震発生約3分後に津波がくると予測されています。3分って、カップラーメンにお湯を入れてからできあがる時間…東日本大震災でも「逃げ遅れによる被害」が多く出ていますから、避難経路・高台の確認は必須です！

地域	高さ(最大)	20cm津波到達時間
木曽岬町	2.7 m	86分
桑名市	2.3～2.4 m	91分～95分
川越町	2.5 m	82分
四日市市	2.4～2.9 m	71分～85分
鈴鹿市	2.7～3.0 m	67分～70分
津市	3.2～3.7 m	59分～68分
松阪市	2.9～3.8 m	54分～66分
明和町	5.2～5.6 m	22分～27分
伊勢市	4.2～5.0 m	15分～19分
鳥羽市	4.5～6.8 m	7分～21分
志摩市	3.1～11.7m	3分～28分
南伊勢町	4.9～9.5 m	8分～20分
大紀町	7.3 m	11分
紀北町	7.4～10.4 m	9分～11分
尾鷲市	4.2～9.3 m	3分～10分
熊野市	5.3～11.0 m	3分～6分
御浜町	7.0～9.6 m	4分
紀宝町	3.1～5.0 m	4分～6分

死傷者 建物倒壊に要注意!

※冬深夜発生ケース

・死者数(早期避難率低の場合)

地域	建物倒壊	津波	急傾斜地崩壊等	火災
北勢	約 2,000	約 3,700	約 10	約 300
中勢	約 2,800	約 6,600	約 20	約 400
伊賀	約 90	約 10	-	-
伊勢志摩	約 3,600	約 16,000	約 40	約 300
東紀州	約 1,200	約 16,000	約 20	約 30
合計	約 9,700	約 42,000	約 100	約 1,100

・重軽症者数(早期避難率低の場合)

地域	被害区分	建物倒壊	津波	急傾斜地崩壊等	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物
北勢	重症	約3,900	約100	約10	約60	-
	軽傷	約14,000	約300	約10	約100	-
中勢	重症	約4,700	約200	約10	約70	-
	軽傷	約12,000	約500	約10	約200	-
伊賀	重症	約200	-	-	-	-
	軽傷	約1,800	-	-	-	-
伊勢志摩	重症	約6,300	約100	約30	約50	-
	軽傷	約9,800	約300	約30	約100	約20
東紀州	重症	約1,800	約200	約10	-	-
	軽傷	約3,800	約300	約10	約10	-
合計	重症	約17,000	約700	約60	約200	-
	軽傷	約42,000	約1,300	約60	約500	約30

建物被害 約18万棟以上が全壊!

項目	被害区分	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
地震動	全壊	約 170,000		
	半壊	約 15,100	150,000	144,000
液状化	全壊	約 6,200		
	半壊	約 12,000	12,000	11,000
津波	全壊	約 37,000		
	半壊	約 37,000	約 37,000	約 34,000
急傾斜地等	全壊	約 1,100		
	半壊	約 2,500		
火災	焼失	約 12,000	約 14,000	約 34,000

※死傷者、建物被害は「理論上最大クラスの南海トラフ地震による被害想定」です

※津波被害は「過去最大クラスの南海トラフ地震による沿岸評価点における20cm津波到達時間及び最大津波高」です

死者数は津波が圧倒的に多いですが、重軽傷者は建物倒壊による被害が一番大きいことが分かります。家の耐震や家具固定などきちんと行っておけば、避けられる被害もあるかもしれません。

Q 三重県での取り組みをお聞きしました

国の発表によると、今後 30 年以内に南海トラフを震源とする大規模地震が発生する確率は、70%程度とされています。一方で、三重県が毎年実施している調査によると、東日本大震災から 4 年が経過し、県民の方々の防災意識が徐々に低下している傾向が見られます。このような状況を受け、三重県では、特に「自助」「共助」による取り組みを促進することが重要と考え、様々な事業を展開しています。その一つとして一人ひとりが津波避難計画を考えるため、津波避難経路や住所、家族の連絡先や非常時持ち出しリストを記した小冊子である「My まっぷラン」を使って、個人や家族の津波避難対策を考えてもらい、それを地域の避難計画づくりへとつなげてもらう「自助」「共助」を促進するための取り組みを進めています。現在は三重県内の 8 市町が取り組みを進めており、この取り組みを平成 29 年度までに 19 市町(三重県内のすべての沿岸部の市町)に広げていきたいと考えています。

また、三重大学と共同して「みえ防災・減災センター」をたちあげ、その中で地域の自主防災リーダーをはじめとする防災人材の育成をおこなうとともに、活躍の場を提供しています。私たちは、いつか必ず発生する地震・津波への備えを万全にし、その備えを“当たり前なもの”にしなければなりません。そのためには、防災の取り組みを特別な活動と考えるのではなく、日常生活と一体のものとして捉える「防災の日常化」という考え方を定着させる必要があり、その重要性を広く県民のみなさんに訴えていきたいと考えています。



Q みえ防災市民会議の山本康史さんに「今からできる大地震への備え」についてお聞きしました



防災の取り組みや東日本大震災の被災地での活動を通じて感じるのは、「まずは死なないこと」。災害が起きて、人が死ぬのには 2 つの時期があります。ひとつは地震による家の倒壊や津波にのまれるといった災害そのものの被害で亡くなるケース。もうひとつは避難生活の中で、さまざまなストレスを感じ体調が崩れ避難所や仮設生活で人が亡くなるというケースです。南海トラフ地震に備えるということもまずは「死なないこと」。そのためには「つぶれない家に住むこと」。これが結論です。今新しい家を建てる場合は耐震基準があり、基本的には震度 6 強でも倒れないようになっています。新しい家を建てるには費用がかかりますが、耐震強度の足りない家に住んでいれば避難するチャンスすら与えられず命を落としてしまいます。まずは家をなんとかする！

これしかないんですよ。今すぐではなくても、南海トラフ地震がくるといわれる 2035 年 ±10 年の間に、時間をかけて自分達が住む場所をリプレースしていくことが最優先です。家にお金がかけれない場合は、人に被害を与える家具を固定する、もしくはローボードにかえる。部屋数の多い家に住んでいるなら、そのうちの一部屋を家具部屋にしてしまうのもひとつの方法です。寝室、リビング、台所には背の高い家具は置かないようにする。人がいる可能性が高い場所から背の高い家具をなくせば、比較的生存率が高まり怪我をする可能性は低くなるので、こういうことを実践していくのが、個人ができる備えです。震災時には、家が倒壊するときの摩擦熱による直後の火災とともに、崩れかけた家の配線がショートしていて、電気の復旧とともに火災が発生することも多いんですよ。耐震性が確保されていれば倒壊による火災も配線ショートによる火災も防げるので、火災予防にも耐震が大切です。避難訓練や非常持ち出しは、その後のことで、まずはいのちを繋げて避難ができるように倒れない家に住むこと、家具で怪我をして他人に迷惑をかけないよう家具を固定しておく、というように備えておくことが大事。一番お金がかかるように感じますが、耐震がまず取り組むべきことなんです。

Q 「災害ボランティア」についてお聞きしました

災害ボランティアは、被災地の片付けをしたり炊き出しをするといった肉体労働のイメージがあるけれど、実はこれからの時代で重要になってくるのは身近な生活を支えるボランティアなんです。災害時には、日ごろから弱い人にさらにしわ寄せがいきます。ですので、避難所生活において、寝たきりの人や外国人、子どもなどの少数で多様なニーズに対応できる、専門性のあるボランティアの方はとても重要です。日ごろやっている各分野の NPO・ボランティアの活動経験から得られる視点で被災地域を見渡し、いのちに関わるような弱者へのしわ寄せをみつけ、本人があげられない声を代わりに発信し、支えられる。そんな人たちが求められているんです。外部から来る専門性ある NPO・ボランティアを被災地で活かしていくためには、その受け皿として各地の市民活動センターがもつネットワークを活かしたコーディネート力に期待したいです。平常時からの分野ごとのボランティアコーディネート、マッチングを災害時にも活かすことがとても重要だと思います。

そのため、三重県とともにこういった災害以外の専門性を持った NPO が災害直後から日頃の専門性を活かした活動に取り組めるよう支援していくため基金をつくりました。平時から三重県 NPO 班が事務局となって災害ボランティア基金を募っており、集まった基金は三重県内での災害時に専門性の高い NPO の支援活動に使われます。

熊野レストレーションの端無徹也さんに「テクニカルボランティア」についてお聞きしました



災害が発生すると、最近では流木や倒木などの支障木が必ず被災を大きくします。また、復興の妨げになることから、より早く撤去する必要があります。特に、水害における支障木は、年を追うごとに増加傾向にあります。しかし実は、支障木は発生する前触れや説明がつく場合があります。里山林の保全が蔑ろになっていたりと、河川の護岸木が荒れ放題になっていると、災害時に支障木が発生する可能性はぐんと上がるのです。つまり、土地の持ち主の意識が低いと、それだけ大きな被害が出てきてしまいますので、日ごろから里山林保全活動に力を入れることが、備えのひとつとなります。

私たちが行っている「テクニカルボランティア」はそのような支障木をチェーンソーなどで処理し、救援や復興をいち早く推し進める役割があります。災害には2次被害の懸念がついて回るので、私たちのような現場コーディネーターやスキルのあるボランティアの主体が求められています。

チェーンソーなどの資機材は、誰でも購入できて使えますが、身体への危険度も高く、事故や怪我の度合いも深刻になる可能性もあります。自分で処理をするのも良いですが、いざという時に「テクニカルボランティアがある」ということを知っていると良いかもしれません。私たちは、現場コーディネーターのスキルアップ講習や、被災地での実践活動から蓄積するノウハウを、より多くの人に知ってもらい、活動の共有をしたいと考えています。知ると言うことは、備えると言う減災に繋がります。

あなたの家の防災バッグは大丈夫？チェックシートでいまず確認！



防寒 使い捨てカイロ
 サイバルブランケット

救急 救急用品セット
 毛抜き

食料品 飲料水
 携帯食（チョコレート、キャンディーなど）
 非常食（水・調理なしでそのまま食べられるもの）

ヘルメット・防災ずきん・帽子など

装備 ホイッスル
 手袋（作業用）

運動靴
 懐中電灯

道具 万能ナイフ類（複合ツールが便利）
 ロープ

衛生 マスク
 簡易トイレ
 ティッシュペーパー・トイレトペーパー

情報 携帯ラジオ（予備電池も）
 携帯電話（充電器・バッテリーも）
 身分証明書（コピー）
 筆記用具（メモ帳とペン）
 油性マジック（伝言を書くため）
 現金

ハンカチ（大判）・手ぬぐい
 タオル

凡用 安全ピン
 ポリ袋

ビニールシート類
ライター（またはマッチ）
 布ガムテープ

今回は基本的なものだけを掲載しましたが、高齢者であれば介護手帳やおむつ、乳児であれば粉ミルクやだっこ紐、障がい者・外国人であれば障がい者手帳やパスポート、コミュニケーションを助けるもの（筆記用具等）など、個別で用意しておくものもあります。

自分が被災した時、家族が被災した時に何が必要なのか？を考え、それぞれ用意しておきましょう。

ゲームをしながら災害対応を学ぶ!?「クロスロード」を体験してみました



災害時に迫られるさまざまな判断について、ゲームを通じて学ぶことができる「クロスロード」を体験してみました。カードに書かれた事例を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながらゲームを進めていくことで、災害時にそのような状況になったとき、どのように判断すべきかを議論し合いながら学ぶことができました。



避難訓練は幼稚園の頃から何度も行いますが、防災に関することを教えてもらうことってあまりないですね。東日本大震災をきっかけに、防災や災害支援に関する取り組みは広がってきましたが、年月が経ってしまうと、どうしても“忘れがち”になってしまいます。でもそれを“当たり前のこと”にしておけば、災害時に助かる確率はぐんと上がります。家の耐震補強！防災バックやMyまっぷランなどの作成と備え、クロスロードなどで災害時の対応を学ぶ。「自分の命は自分で守る」。まだ起こっていない今だからこそ、やるべきこと、やった方がよいことを確認し、行動するのは大切ですね。

協力：三重県防災対策部 防災企画・地域支援課 防災企画班様、NPO法人 みえ防災市民会議様、一般社団法人 熊野レストレーション様、チームクロスロード様、「クロスロード」ゲーム体験会にご参加いただいたみなさま

三重ぐるり

MIEGURURI

「三重ぐるり」では、毎月テーマを設け、そのテーマに沿った三重県内の市民活動団体を紹介しています。今月のテーマは【災害・防災】。災害に備えて防災活動に取り組んでいる団体を県内の市民活動センターから紹介していただきました。

桑名防災支援ネット

情報提供：みえきた市民活動センター

〒511-0943 桑名市森忠 ☒ kawase-h@intsurf.ne.jp



メンバーが集まって勉強をしています。

災害にあわれた人たちへの支援活動と、防災の取り組みに対しての支援活動とを中心に、それぞれのメンバーが自分たちの思いで自分たちができることをやろうという姿勢で活動しています。東日本大震災の時は、物資の詰め込み作業や写真の洗浄、また、食物に放射線の不安があるという人に、こちらから野菜を送ったりと、各自がそれぞれに支援に取り組みました。

メンバーは皆、いろいろな経験をつんで来ています。情報を交換し合い、いろいろな角度からの視点で、実際に支援できるためのさらなるスキルを、身につけていこうと考えています。

最近では、伊勢湾台風のことや、災害時のアレルギー児への対応なども、いろいろな人や団体と連携しながら、学び、広めています。

メンバーの高齢化もありますが、若い人も活躍しています。仲間を募集中です。みなさん、どうぞ来てくださいね。

さまざまな勉強や防災の集いなどの機会に、どうぞ声をかけてください。

それぞれのメンバーが自分たちの思いで自分たちができることをやろう。

NPO 法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿

情報提供：市民ネットワークすずかのぶどう

〒510-0254 鈴鹿市寺家 3-33-33 ☎ 059-386-2400 ☒ engawa@mecha.ne.jp



南海トラフ地震への備えは何といっても将来、地域や行政の防災対策の主力となる子どもたちに託したい！という思いから「子ども防災サミット」を毎年開催しています。お互いの年齢や経験値の差をサポートしながら学ぶ中で、災害への備えを考え、防災意識を高め、子どもたち自身が自分を守る災害対応力を身に付けることを目的としています。

8月の第1土、日を開催日とし、無線を使つての災害時の通信方法を体験する講座、ロープ渡りや消火訓練などを体験。暗闇体験。地震のメカニズム、活断層とは？そして耐震とは？等を防災講座で幅広く学びます。そして築きあう防災に強い知識と行動を共有したいと思っています。

もちろん東北の被災地への支援は継続的に行っており、35回目になります。各地の防災啓発活動を引き受け、講座の開催を行う活動もしています。

まずはお電話ください！

1人では何もできないが皆で共に活動し、助け合おう。そして次のステップへ登ろう。

NPO 家具固定を進める会

情報提供：津市市民活動センター

☎ 059-234-7603 (吉田)



ダミー人形を使った耐震実験の様子

地震などによる家具の転倒を防止するための施工活動を年間で2、30件程行っています。耐震診断士の資格を持つ「NPO 家具固定を進める会」会員が下見を行い、大工、設備、塗装、電気、左官、内装などの職人である会員が実際に家具の固定を行います。津市と連携しながら家具固定を推進しており、家具の固定・取り付けに関する申込み窓口が津市危機管理室にあります。家具の固定・取り付けは有料ですが、市の家具固定に対する補助金制度を利用することができます。

また、家具固定啓発のための実演講演会を行っています。自治会からの要請で200名規模の実演講演会を、個人宅で20名規模の講演会を開催しました。地震が起きた際には、倒れた家具や割れたガラスで被害を受けることが多く、家具を固定するだけでかなりの減災につながります。簡単な固定方法のアドバイスもできますので、気軽にご連絡・ご相談ください。

上記連絡先までご連絡ください。

津市の家具固定率は全国的に見て低い数値です。正しい方法で家具を固定していただくための方法をお伝えできますので、ぜひご利用ください。

防災ボランティアネットワーク松阪

情報提供：松阪市市民活動センター

☎ 0598-36-1870 ✉ oh0817@mctv.ne.jp



「災害ボランティアセンター・サポーター養成講座」の様子

松阪市を中心に総合的な防災活動を行っています。設立 19 年を迎え、防災の分野では市内でもっとも実績のあるボランティア団体です。

活動のメインは、防災意識の啓発を目的としたワークショップ形式の出前講座や、国内で災害が起こった時の救援活動・ボランティアコーディネートなど。災害図上訓練の一手法「DIG」を活用した出前講座は、地域組織や自治会、行政、企業に対して 200 回以上行ってきました。

いま注力する課題は、災害時における要援護者のサポートです。災害発生時、お年寄りや障がい者など自力で逃げられない方を助けるためには、10～20 軒の顔が見える“細”単位の小さなコミュニティが普段から情報を共有し合い、互助（お互いに助け合う）の意識を持つことが重要です。そこで同団体が向いて勉強会を行うことで、住民同士の温度差をなくし、住民自身が沿岸部・山間部など地理的環境に応じた避難行動を主体的に考えるサポートを進めています。市内の住民協議会をはじめ、依頼を受け明和・多気・大台などの近郊へ向くことも増えています。

今年の養成講座（全 5 回）の詳細は松阪市社会福祉協議会へお問い合わせください。（市外の方も受講可）そのほか、防災のことなら何でもご相談を承ります。

非常時に災害ボランティアセンターを運営する人材づくりを目的に、松阪市社会福祉協議会などと連携して「災害ボランティアセンター・サポーター養成講座」を開催しています。平時より地域防災に関わる人材の育成にも繋がっています。

Mie Protect Oneself (三重 自分の身は自分で守る)

情報提供：いせ市民活動センター

伊勢市 ☎ 0596-36-7638



あなたも私も災害弱者です。

赤ちゃんとお母さん、妊婦さん、子どもたち、お年寄り、さまざまな病気や障がいのある人々・・・こういった人々を災害弱者と言います。地震や津波が起こったときに、どうしても不利な立場になりやすい人たちです。

また、これらの人々のご家族や関係者なども一緒に避難しますので、広い意味での災害弱者です。伊勢市では、65 歳以上の人口が 25% を超えたので、住民の半分くらいは何らかの災害弱者と考えてもよいでしょう。

災害が起こったときに、これらの人々の命を守るには、「とにかく逃げる」では済みません。東日本大震災で犠牲になったのは、「とにかく逃げる」ことのできない人たちだったと考えられるからです。

私たちは、地域のグループや小学校を対象に、そのような視点での活動を推進しています。「災害弱者の視点からの地震・津波対策」の講演活動や、あなたの地域の地震・津波対策の教育、研究、そして実践のために活動をしています。

まずはお電話ください！

どの地域でも大災害が危惧される中、地域や個人の現実を踏まえた、より人間の視点からの対策が必要です。講演依頼受付中！

紀北町災害ボランティアコーディネーター養成講座(紀北町社会福祉協議会)

情報提供：東紀州コミュニティデザイン

〒 519-3204 北牟婁郡紀北町紀伊長島区東長島 209-9 ☎ 0597-47-0725 ✉ kihoku-knsya@zb.ztv.ne.jp



養成講座でのグループワークの様子

平成 24 年度より開催している災害ボランティアコーディネーター養成講座では、災害発生時の役割分担や避難者支援、防災に関する心構えなどを、地域住民同士で考え、話し合う機会を提供しています。紀北町において約 10 年前に経験した大水害の被害、そして東日本大震災被災地でのボランティア活動の経験を通して、地域防災の現状に危機感を抱いたことが開催のきっかけとなっています。「日常生活での取り組みこそが、災害時に生きる力となる」という考えのもと、同講座が期待するのは地域住民の積極的な取り組みにつながることで、そのためにも、福祉関係者に偏らない多様な職業や年齢層からの受講者を増やすことや、実践を想定した次のステップの講座を取り入れていくことなどが今後必要だと考えています。そして、講座修了者が集まって地域の防災訓練に参画するといった、常時からセクター同士が連携できるような取り組みを展開することで、災害発生時にも生きる体制の実現を目指していきます。

養成講座の受講（受講条件なし）、関連企画への参加

災害に限らず、個人では解決できない課題が地域にたくさんあります。そんな地域の課題に受講者が積極的に取り組みはじめ、住民同士の支え合いの力が強まることを期待して、今後も充実した講座を実施していきます。

募集のご案内

フォトジャーナリズム展三重 2015 ～あなたに見てほしい写真がある～

- 第11回 DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞受賞作品展
 - 沖縄から考える戦後70年展
 - 8月8日(土) 15:30～17:00 実行委員による解説講話「沖縄の戦後70年が問いかけること」(第2会議室)
 - 併催企画
平和憲法ネット主催「圧殺の海」の上映会(有料) 2回
8月8日(土) 13:30～15:30 第2会議室
8月8日(土) 18:30～20:30 お城ホール
- 日時** 8月5日(水)～8月9日(日)
10:00～19:00(最終日17:00)
- 場所** 津リージョンプラザ3階生活文化情報センター(展示室)
- 参加費** 無料
- 問合せ先** フォトジャーナリズム展三重
TEL: 080-5100-5448(眞弓)
FAX: 059-229-3078
- ✉** photojournalism_mie@yahoo.co.jp

第3回 森の音楽祭

- 国際交流の一環として、今年で3度目の森の音楽祭。森林セラピー基地でもある美杉の森で、ラテンの音楽を聴きながらゆったりとした時間を過ごしませんか?音楽の他に、ワークショップや南米料理もご用意しています。参加者の皆様にとって、最高の一日になるようスタッフ一同準備しています。
- 日時** 8月2日(日) 11:00～15:00
- 場所** 三重県津市美杉町八手俣 杉の森
- ※雨天の場合は、美杉総合文化センター(三重県津市美杉町八知5580-2)
- 参加費** 500円(中学生未満のお子様は無料です)
- 事前申込** HPより、「第3回森の音楽祭」案内ちらしをダウンロード頂き、FAX、もしくはHP内の「お申し込みフォーム」よりお申し込みください。
- 問合せ先** NPO法人DIFAR 三重県津市美杉町八知1383
TEL: 059-212-0154 FAX: 059-212-0154
- ✉** info@difar.jp **HP** <http://difar.jp/>

2015年度 第2回 原発シンポジウム 原発のない未来へ ～本当に必要なのは原発か～

- 政府や電力会社は原発再稼働に向け着々と準備を進めています。このまま原発を動かしていいのでしょうか?私達は原発のない未来を創ることはできないのでしょうか?今回は3つのテーマで問題提起します。
- 「安保と原発、関係あるの?」

- 「脱原発。ドイツにできてなぜ日本にできないのか」
 - 「電力会社と契約しない家」
- 日時** 8月16日(日) 13:30～16:00
- 場所** 中部地区市民センター4階大会議室
(四日市市西浦1丁目8-3 近鉄四日市駅徒歩10分)
- 参加費** 無料
- 問合せ先** 脱原発四日市市民の集い・シンポジウム実行委員会
TEL: 090-1284-4186(園田)
- ✉** tanutanu9887@ezweb.ne.jp
- HP** <http://blog.goo.ne.jp/tanutanu9887/c/0873adfe780a3be09a5a671262c17921>

三重のまなび2015 終戦70年特別講演会 「無言館」のこと ～戦没画学生が伝えるもの～

- 戦後70年。今こそ、画家になりたいという志を果たすことなく戦地に散った画学生たちの、その遺作にこめられた「意味」を問い直したい。そこには、私たちが来たるべき明日をどう生きねばならないか、という教えがあるような気がする。(窪島誠一郎)
- 講師** 窪島 誠一郎(「無言館」館主・作家)
- 日時** 8月11日(火) 13:30～15:00
- 会場** 三重県文化会館 小ホール
- 受講料** 無料 **定員** 200名
- 申込方法** 事前申込制・先着順
電話・FAX・窓口・郵送・Eメール・ホームページ申込フォーム
- ※申込の際は講座名・お名前(ふりがな)・電話番号をご明記ください。
- ※受講ハガキ等は送付いたしません。
- 注意事項** 未就学児入場不可
- 問合せ先** 三重県生涯学習センター
TEL: 059-233-1151 FAX: 059-233-1155
- ✉** manabi-kouza@center-mie.or.jp
- HP** <http://www.center-mie.or.jp/manabi/>

第7回家族の絆 一行詩コンクール「ありがとう」の一行詩大募集!

- 大切な人への『ありがとう』という気持ちをテーマにした一行詩を募集します。
- 募集期間** 9月30日(水)まで(当日消印有効)
- 応募方法** 郵便、FAX、電子メール、申請・届出等手続の総合窓口のいずれか(点字の場合は、封書で送ってください。)
- 主催** 三重県、みえ次世代育成応援ネットワーク
- 問合せ先** 三重県健康福祉部少子化対策課(山田、村島)
TEL: 059-224-2269
- ✉** shoshika@pref.mie.jp
- HP** <http://www.pref.mie.lg.jp/D1KODOMO/app/details/index.asp?cd=2015050173>

みえぎんNPOローン

特許取得中
委託金、助成金等の受け取りまでの「つなぎ資金」として最高1,000万円まで無担保でご融資!

対象:三重銀行の三重県下営業エリア内に主たる事務所を有するNPO法人

※ただし、当行所定の審査の結果、ご希望に添えないことがあります。

詳しくはTEL059-354-7130(審査部)まで
URL: <http://www.miebank.co.jp>



三重県の新名物

伊勢おやき本舗

年齢、国籍、性別、障害の有無にかかわらず
ともに働き、ともに成長する「ユニバーサル就労」の店



イベント出店、ご当地おやきの開発など、各種御相談に応じます。

四日市市諏訪栄町3-4 TEL/FAX 059-355-5115 ssk21ww@yahoo.co.jp

助成金情報

助成金情報はみえ市民活動ボランティアセンターホームページでも多数ご紹介しております

① 締め切り・募集期間 ② 対象 ③ 助成金額／表彰内容

日本国際協カシステム JICS NGO 支援事業 H27 年度支援対象事業の募集

- ① 8月20日(木) 当日消印有効
- ② 開発途上国への援助活動を行っている国内の中小規模 NGO・NPO 団体
- ③ 単年度(1年):1件の上限100万円(8件程度、その他スポーツ分野は2件程度)、複数年度(2年):1件の上限1年目100万円/2年目50万円(2件程度)

イオン環境財団 第25回環境活動助成先公募

- ① 8月20日(木) 関係書類必着
- ② 開発途上国および日本国内での環境活動とフィールドワークを伴う活動に取り組む非営利団体
- ③ 総額1億円

公益推進協会 『第8回 夢屋基金』 募集

- ① 8月26日(水) 当日消印有効
- ② 子ども健全育成、環境保全、医療保険、国際交流などの分野で活動を行うNPO法人
- ③ 1件の上限50万円(5件程度)

木口福祉財団 平成27年度被災地復興助成公募

- ① 8月27日(木) 必着
- ② A. 東日本大震災等で被災された障がい者への支援活動に取り組む団体・グループ、B. 岩手県・宮城県・福島県の東日本大震災被災地域に拠点を置く障がい者支援団体
- ③ A. 活動助成:1件の上限50万円、B. 施設整備助成(東日本大震災被災地域に拠点を置く支援団体:1件の上限300万円)、A・Bの総額1,200万円

ベネッセ子ども基金 重い病気を抱える子どもたちの学習支援活動助成

- ① 8月31日(月) 必着
- ② 学習の機会の提供や学習環境作りなどの活動に取り組む非営利団体
- ③ 総額2,000万円

日本フラワーデザイナー協会 平成28年度 NFD one leaf fund 募集

- ① 8月31日(月) 当日消印有効
- ② 自然環境及び景観の保全につながる公益的な活動や福祉活動に取り組む団体・個人等
- ③ 1件の上限80万円(総額400万円)

千代田健康開発事業団 第19回保健活動助成

- ① 8月31日(月) 必着
- ② 地域保健活動を中心に行っている保健師(個人及びグループ)
- ③ 1件の上限20万円(35件以内)

スタッフルーム

さて、READER リニューアル第2弾のテーマは「災害・防災」でした。

来月9月1日は防災の日ですね。防災の日を前に一度このことについて考えてみようと思います。三重県の調査によると、県民の防災意識は東日本大震災直後よりも年々低下しているそう。いつくるか分からないとはいえ、いざ何かがあったとき後悔しないよう備えておくことは大切なことです。家の耐震チェックや家具の固定、避難経路の確認など…。備えあれば憂いなし!日ごろから防災意識を高め、いつ地震がきても被害を軽減できるよう対策をしておきたいものです。

(大槻)

認証
した

特定非営利活動法人

(2015年6月10日～2015年7月9日認証分)

①法人名②主たる事務所の所在地③活動分野
④認証年月日⑤代表者

- ①特定非営利活動法人 Pro Trainer 健康スポーツ協会
- ②伊賀市比土129番地の3
- ③保健、社会教育、まちづくり、観光の振興、学術、災害、子ども、その他
- ④2015年6月11日
- ⑤理事長 佐藤 実

- ①特定非営利活動法人 ぶらむ
- ②津市森町5000番地8
- ③保健、職業能力、障がい者の自立と共生社会
- ④2015年6月15日
- ⑤理事長 松本 祐子



転載を希望の場合は必ず「みえ県民交流センター指定管理者:みえ NPO ネットワークセンター」に連絡してください。

READER はこちらにあります。

【地域の市民活動センター等】(津市)みえ市民活動ボランティアセンター/津市市民活動センター/三重大学/看護大学/三重短期大学/高田短期大学 (桑名市)桑名市市民活動センター (いなべ市)いなべ市市民活動センター (東員町)とういんボランティア市民活動支援センター (四日市市)四日市市なやプラザ/四日市大学 (亀山市)亀山市市民協働センター (鈴鹿市)市民ネットワークすずかのぶどう/鈴鹿国際大学/鈴鹿医療科学大学 (松阪市)松阪市市民活動センター (伊勢市)いせ市民活動センター/皇學館大学 (志摩市)阿児アリーナ/横山ビジターセンター (名張市)名張市市民活動支援センター/エコリゾート赤目の森/名張市立図書館/名張青年会議所/名張市総合福祉センター (伊賀市)伊賀市市民活動支援センター/伊賀市立図書館/伊賀青年会議所 (尾鷲市)東紀州コミュニティデザイン (明和町)めいわ市民活動サポートセンター (南伊勢町)南伊勢町町民文化会館 (紀宝町)紀宝町ボランティア市民活動センター

【地域の社会福祉協議会】県内の市町社会福祉協議会

【金融機関・企業等】百五銀行各店/第三銀行各店/三重銀行各店/東海労働金庫各店/県下JAバンク各店/メディカル光各調剤薬局

【行政機関等】三重県庁県民ホール/三重県地域機関(地域防災総合事務所[桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊賀] 地域活性化局[南勢志摩、紀北、紀南])/三重県栄町庁舎(情報公開窓口)/三重県総合医療センター/三重県立一志病院/三重県立志摩病院/三重県立こころの医療センター/三重県立こころの健康センター/斎宮歴史博物館/MieMu(三重県総合博物館)/三重県立図書館/三重県生涯学習センター/三重県男女共同参画センター「フレンドみえ」/三重県人権センター/三重県身体障害者総合福祉センター/三重県環境学習情報センター/三重県立熊野古道センター/各市町役場/各市町中央公民館など

協賛

みえ市民活動・ボランティアニュース発行にあたり、協賛をいただいております。

キラリと光るあなたの銀行
第三銀行

三重銀行

百五銀行
FRONTIER BANKING

健康・安心・貢献
東海ろうきん

JAバンク
三重県下JA/JA三重信連

株式会社
阪本事務機



環境にやさしい植物油インキを使用しています。